

2024年7月1日
第577号
(毎月1日発行)

咲いたネット
URL：
http://www.saitanet.or.jp
Eメール：
saita@saitanet.or.jp



発行所
埼玉県労働組合連合会
〒330-0063
埼玉県さいたま市浦和区高砂
3-10-11 第一木村ビル
TEL 048-838-0771
FAX 048-838-0775
編集発行人
埼玉県労働組合連合会
【定価】1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

くらし第一の経済政策への転換を！
埼労連第33回サマーセミナー開催

埼労連は、6月15日(土)に【第33回サマーセミナー】をさいたま共済会館で開催し、13単産・12地域から74人(現地参加57人・オンライン17人)が参加しました。

今回は、行き詰まる日本経済と疲弊する国民生活の現状から、とことんアメリカ言いなりの外交・防衛・経済政策の日本ていいのでしょうか？という問題意識から法政大学社会学部の増田正人教授に「グローバル経済からみた米中関係の今と日本 くらし第一に向け政策転換をめぐらそう」と題して、ご講演をいただきました。

経済を考えたときグローバルな視点が必要不可欠で、世界貿易機関(WTO)発足の



講演する増田先生

と知財重視の世界戦略のもとでの米中蜜月によってアメリカと中国の高度成長と経済的繁栄がもたらされ、更にはフアアレス化と委託生産により多国籍企業が何ら責任を負わずにぼろ儲けできるしくみをつくりあげられたこと。その一方で現在では先端技術をめぐる米中の覇権獲得競争として政治的対立の激化にあることを詳しく講演してもらいました。

そのうえで日本経済は、日米安保条約と対米従属の弊害が最大の重荷となっており、アメリカ力追随では日本経済、国民の暮らしはますます厳しいものになると指摘、日本の国民生活を最重視する政策として、①現在のWTO体制(知財重視の世界)を変えること、②外需ではなく

日本の内需に依存する経済への転換をはかること。そのためには各階層で国民的課題を共有し、連帯していくこと抜きに独自の課題も解決しない。暮らし第一の政策に転換していくために政治を変えていく必要があることが示されました。講演の後に、埼労連が考



会場には57人が参加(オンライン17人)

える学習教育の重要性について宍戸事務局長から問題提起があり、その後の討論では特別発言として、教育分野が抱えている「働かせ放題の給特法」などの課題で埼教組の沖田委員長が発言、建設分野の課題では、深刻な担い手不足を中心に埼玉土建の平松教育部長が報告、医療分野からは、公定価格など、公的制度によって抑えられてきた医療・介護労働者の低賃金課題を中心に医労連の藤田書記長から報告があり、「金権腐敗」によって国民に不利益をもたらしてきた自民党政治のゆがみと、そのゆがみ改善にむけた労働組合のとりくみを全体で共有しました。

紙面から

- サマーセミナー (1面)
- 東部地区協BBQ (5面)
- 労働相談実践講座 (2面)
- 各組織のとりくみ (6面)
- オール埼玉6・2大集会 (4面)
- 埼労共のページ (8面)

相談にのれる地域組織めざし

地域組織・労働相談実践講座

埼労連は5月幹事会で、9月の埼労連大会までに、オンラインによる地域組織・労働相談実践講座を8月まで月1回開催することを確認しました。参加対象は、地域組織の議長、事務局長、労働相談



完全オンラインで10地域が参加

ありました。草加八潮地区 労・金井副議長、北足立南部地区 労・小野副議長が報告をし、その後、意見交流をしました。草加八潮地区 労は、①全労連労働相談フリーダイヤルの県南東部エリアから入ってくる、②草加市の消費生活相談から相談が回ってくる、③地区労や市内の民主団体など

と協力して何でも相談会をやり、労働関係に対応している、という現状を報告、労働相談に対応する組合の役割は大きいこと、課題は労働相談をする担い手を広げることだと話されました。

北足立南部地区 労は、2014年の地区労大会で労働相談部会を確立する方針を持って、地区労役員、埼高教出身者、元・埼労連副議長など6人で毎月部会を行い、労働相談事例も検討するなどとして続けていることを報告。現在は、理研労組の裁判などについても毎月の部会で進行状況を確認しています。

事例報告を受け、熊谷地域労連・竹内議長、AOI労連・柴田議長、鴻北労連・沼尻議長、春日部労連・小林議長が、それぞれSU支部の面倒をみていることもあり、SUへの積極的な関わりを報告、合わせて地域組織に労働相談を受ける窓口がなく、埼労連やSUから来る相談に対応する活動が中心であることなどを発言しました。

蕨地区 労の八色さんは木・金の午後土建蕨センターに地区 労の

パソコンなどを配置して半専従として動き出している報告があり、草加八潮地区 労がやっている何でも相談会を各団体といっしょに蕨で再開したいと発言、比企労連の島田議長は、事例報告の2地域が集団的に労働相談に対応しているところがすごいと話し、比企でも全労連フリーダイヤルを2017年から対応していること、専門的な内容は単産県組織から役員にきってもらい相談対応していることなどを報告しました。三郷市 労連の松田議長は、埼労連やSU、日本共産党市議団からの相談に対応してきたこと、さいたま地区 労・前島議長は、過去に地区 労事務所に対応してきた時期もあったが現在は対応できず、近くに事務所のある埼労連やSUに頼っている状況と、次の担い手を育成していくことが大きな課題だと述べました。

6月26日(水)にも、午後2時から3時30分まで「労働者の権利を学ぶ。相談に入る前の基礎知識」をテーマにオンラインで開催しています。

蕨地区 労の八色さんは木・金の

春の学習交流集会 2人が組合加入!

埼高教

「生徒や保護者への寄り添い方について悩んでいた。学習会に参加して勇気づけられた」「日々の忙しさでついイライラしてしまふ。子どもたちと向き合う楽しさ喜びをまた再確認しました」、5月11日(土)に開催した「春の学習交流集会」後に寄せられた感想です。ベテランの先生に日頃の実践を講演してもらい、講演後には、グループに分かれて講演の感想や、日頃の悩み、自分の実践などについて話し合いました。

交流会では、食事をしながら、日頃の活動が紹介され、青年組合員も次々と自己紹介や職場の様子を話してくれ、大盛り上がり交流会となりました。学習会に約70人、交流会に約40人の教職員が参加しました。学習会の翌週、参加してくれた青年教員が2人加入しました。学び合える、語り合える組合運動に確信を持って、今日も職場で多くの組合員が新たな仲間

全国一律最賃1500円以上めざし 6・20中央行動で省庁要請

全労連・国民春闘共闘委員会は6月20日(木)に、「第4次最賃デー」として位置つけた中央行動を行いました。厚生労働省と中小企業庁への要請行動などに取り組み、埼労連から加藤幹事が中小企業庁要請に参加し、懇談を行ってきました。

中小企業等との懇談では、要請項目の、①最低賃金の地域間格差



当事者も参加して記者会見

1時間の懇談を終了
よう強く要望し、約
策として位置づける
成長させるための政
ただでなく、経済を
会福祉政策」として
れ、最低賃金を「社

の解消、全国一律1500円以上の実現にむけた中小企業・小規模事業者支援策の強化、その際の、「生産性向上」を必要条件としな
い中小企業・小規模事業者が使いやすい新たな「助成金の支給」制度の創設、②労務費増加分の価格転嫁の促進にむけ、公正な取引ルール確立のための法整備と、体制の拡充・強化、③中小企業支援の
具体的要望5点に対する回答を受け、参加者から質問や要望が出されました。
特に、公正な取引引きのためにも地域別の最低賃金を改め、全国一律を希望する声が多く出され、最低賃金を「社会福祉政策」としてだけでなく、経済を成長させるための政策として位置づけるよう強く要望し、約1時間の懇談を終了

午後からは最低賃金で働く当事者の訴えを中心とする記者会見を開き、最低賃金の大幅な引き上げを訴えています。
(記者会見の様子は、NHKなどで報道されています)



中小企業庁交渉



厚労省交渉

物価高騰での生活苦改善を求め JMITUが一時金闘争

JMITUは取り決めた夏季一時金統一要求を5月22日、9支部・分会が会社側に提出しました。要求平均額は119万7925円(3・529カ月)です。

もう一つは久々にJMITU埼玉地本として地本副委員長の高比良さん(サンウエーブ支部)が決意し、今年の8月に行われる原水爆禁止世界大会(広島大会)に参加することを各支部分会に訴え、援助の要請を行いました。
夏季一時金闘争は短期決戦ですが、粘り強く諦めない闘争にしていきます。

(JMITU埼玉地本発)

24春闘では昨年より1万円台の回答を引き出した支部が増えたものの、この間の物価高騰には全く追いつかず家計は火の車。6月5日の回答指定日には要求に見合った回答をするように経営者へ要請しました。
また、今回の行動では埼労連主体で行われている最低生計費試算調査の取り組み状況の確認、また回収についても予想以上に各支部・分会が取り組んでいることがわ



誠意ある回答求め

自民党政治からの転換を オール埼玉総行動が集会

「立憲主義を取り戻す！戦争させない！9条こわすな！6・2才
ール埼玉総行動」大集会在6月2
2014年に結成されたオール



野党代表が決意表明

埼玉総行動実行委員会も10年が経過し、今回で13回目の大集会となり、心配された天候も、なんとか雨は降らずに、全県から全体で6500人が集会に参加しました。

小出重義実行委員長は、あいさつの中で「私たちの子どもや孫、若者たちに平和を引き継ぐため、みんなが力をあわせて頑張りぬこう」と力強く訴え、実行委員長のあいさつに続いて、埼玉連・戸部事務局長をはじめ、後援団体である埼玉弁護士会、連合埼玉の代表が、後援団体として支えてきた経過と、今後も協力・共同を強めていく決意を表明し、立憲主義を守

る決意を固め合いました。

また、今回のゲストスピーカーとして参加してくれた日本体育大学の清水雅彦教授はスピーチの中で、自公政権とその補完の果たしている役割を厳しく追及し、「次の総選挙で、統一協会と裏金まみれの自民党政治を転換しよう。埼玉、全国で労働組合などに組織と市民と野党の共闘を強め、政権交代をめざそう」と呼びかけました。

野党からは、日本共産党の塩川鉄也衆院議員、立憲民主党県連代表の小宮山泰子衆院議員、社民党の佐藤征治郎さいたま市議、新社会党県本部の村田又一委員長があいさつし、それぞれ「衆議院の三つの補選、静岡県知事選挙など、この間の選挙戦の勝利の流れを総選挙につなげよう。立憲主義・民

主義を守り、平和外交を進める政治に転換するために、市民と野党の共闘を前進させよう」と訴えました。

今回の大集会では、次の世代にこの運動を引き継ぐことをめざして、司会にも青年を抜擢し、参加している各団体などから青年たちによる「リレーアピール」も行われ、最後にアピールを拍手で確認しました。

集会后は浦和駅までパレードしました。



青年もアピール



浦和駅までパレード

清水公園でBBQ交流を楽しむ 東部地区協次世代実行委員会

東部地区協次世代実行委員会主催で、6月23日(日)に清水公園(千葉県野田市)でBBQ交流会を行いました。

当日は、あいにくの空模様で心配されましたが、東部地区協担当の西口副議長をはじめ、5地域から子供の参加も含めて32人が参加してくれました。

アスレチックが天候によって中止になってしまいましたが、アクアベンチャー(水遊びと巨大迷路の複合施設)や、ニジマス釣りな



みんな笑顔です

どで遊んだ後にBBQを食べながら昼食交流を行いました。参加者から自己紹介をしてもらい、和気あいあいと交流しながらビンゴゲームを楽しみ、あつという間に時間が過ぎました。朝は激しく降っていた雨も、集合時間の10時ごろにはほとんどやんで、BBQを食べ終わるころまでは何とか持ちました。「仲間が集まる場が大切」だと参加してくれた仲間も発言してくれ、今後各組織で若い世代の仲間が結集してくれるきっかけになればと思える交流になりました。



炭を積む体験も

今月から最賃審議会がスタート 最賃宣伝に18人が参加

埼労連は6月14日(金)の夕方17時30分から18時15分の時間で、浦和駅東口で最賃・労働法制宣伝をおこない、5組織から18人が参加しました。

埼労連から新島議長、最賃・公契約適正化委員会委員長の小野副議長(埼高教委員長)をはじめ、各組合の役員などが、順に訴え、新島議長は「今年の最賃の引き上げに関する審議会が始まります。物価が上がりが続けるもとで、現在

の最賃額1028円では生活できません。時給は1500円以上必要で、国からの中小企業支援を厚くすること、地域間格差をなくすため、全国一律の最低賃金の法制化が必要」と訴えました。

暑い中でしたが、訴えを聞いて

2つの職場で複数拡大(埼教組)

埼教組では、4月・5月に2つの職場で複数加入がありました。

4月には、2人分会の学校で3人を拡大。1人は臨時採用の時に加入していた人、もう1人は埼玉の組合員だった人です。この2人は、ともに今年度採用の初任者です。この分会では、さらに以前から対象者に上げていた別の教員にも声をかけ拡大が進みました。

1カ月の間に2人分会の学校が5人分会になったのです。

別の分会でも2人の拡大がありました。2人とも特別支援学級の担当です。2人は職場で体罰などの問題で悩んでいたところ、隣の学校の組合員に声をかけられ学習会に参加、埼教組の仲間たちと触れ合うなかで、加入を決意したそうです。そのうちの1人は会計年



署名に協力してくれる人も

度任用職員で、加入に至った理由は「大学を卒業し、希望を持って働き始めましたが、体調不良をきっかけに次々と問題が起こり、対応しない管理職、学校に絶望しているが、今後教職に就く予定で、できる限り希望を持って勉強したい思いで組合に入りました」ということでした。

困難な学校現場だからこそ、組合の存在意義が増しています。職場で未組合員の声に耳を傾け、組合の風を吹かせていきます。

団体交渉でトイレが設置される 相談からSUに加入し実現

誰もが知っている「Meiji」、県内にある明治牛乳蓮田営業所で働く非正規労働者から、不当解雇、残業代未払い、パワハラなどで、SUに労働相談があり2人が加入しました。

ビックリしたのは、この営業所には社員用のトイレがなく、社員は近くの商業施設に制服や帽子を脱いでから利用するよう言われていたのです。

団体交渉が始まって社長宅のトイレ使用が認められました。その後、年内にトイレ設置の意向が示されましたが、「年内」などという不誠実な対応から明治ホールディングスのコンプライアンス委員会へ申し出ました。そんなやり取りの結果、5月下旬に



交渉後に設置されたトイレ

現在、最長の労働争議を抱える明治乳業争議に関わる明治牛乳の職場でもあります。非常識な労働者いじめに対して、引き続き不当行為の是正・労働環境改善に向けて、地元の蓮田地域労連とSUが連携し取り組んでいます。今回のトイレ設置などの交渉の成果を受けてもう1人がSUに加入しています。

(SU発)

最低生計費調査のとりくみ 熊谷駅で宣伝

熊谷駅で宣伝

熊谷地域労連は、5月23日(木)、17時30分より熊谷駅にて8人で消費税反対行動を行い、同時に全国一律最低賃金1500円を求める訴えも行いました。

熊谷地域労連は、5月23日(木)、17時30分より熊谷駅にて8人で消費税反対行動を行い、同時に全国一律最低賃金1500円を求める訴えも行いました。熊谷地域労連は、5月23日(木)、17時30分より熊谷駅にて8人で消費税反対行動を行い、同時に全国一律最低賃金1500円を求める訴えも行いました。

「アルバイトの時給額は彼らにとっては切実な要求」です。(熊谷地域労連発)

「アルバイトの時給額は彼らにとっては切実な要求」です。(熊谷地域労連発)

みんなで書き込み会

SU所沢支部は、埼労連がすすめている生計費調査の書き込み会を行いました。この調査が最低賃金、運動方針の基になっていることを、皆が理解した上

で真剣に取り組んでいただきました。「自分の働き方は標準的ではないと思うが、調査の対象で良いのか？」といった疑問も出されましたが、調査対象がすべての世帯となっていることを確認して、書き込み作業を開始しました。様々なタイプの結果に期待したいと思えます。

SU本部の提起を受けて、生計費調査票の書き込み会を行いました。(SU所沢支部発)

SU本部の提起を受けて、生計費調査票の書き込み会を行いました。(SU所沢支部発)

2人が新加入・初参加だったので自己紹介をはさみ、調査票の記入に取り組みました。選択肢や持ち物財の品目では「？」となることもありましたが、2時間かけて7人が全項目回答を終えました。(SU中部支部発)

2024年6月3日(月) 第13号

最賃署名・生計費調査とくみ推進ニュース

集約目標 最賃署名10万筆 生計費調査票 2000枚に向けて
要求前進へ 対話を広げ、仲間とともに目標数をやりきろう!
発行：埼労連憲法公約推進公正化委員会 電話048-638-0771

熊谷地域労連 全国一律最賃の実現、消費税反対行動

5月23日(木)、17時30分より熊谷駅にて8人で消費税反対行動を行い、同時に全国一律最低賃金1500円を求める訴えも行いました。チラシをばさんだティッシュの受け取りも良好で、特に帰宅途中の高校生、大学生に、「時給1500円に！」と訴えると「お願いします」との声が返ってくることもしばしば、バイトの時給は彼らにとっては、切実な要求なのです。(熊谷地域労連発)

SU 所沢支部 支部のついで 生計費調査の書き込み会

5月25日(土)、埼労連がすすめている生計費調査の書き込み会を行いました。わくわく講座を通じて労働者の問題を考えた後であり、この調査が最低賃金、運動方針の基になっていることを、皆が理解した上で真剣に取り組んでいただきました。自分の働き方は標準的ではないと思うが、調査の対象で良いのか？といった疑問も出されました。2ページに調査対象がすべての世帯となっていることを確認して、書き込み作業を開始しました。様々なタイプの結果に期待したいと思えます。(所沢支部発)

SU 中部支部 手抜きうどんと最低生計費

SU本部の提起を受けて、5月26日(日)生計費調査票の書き込み会を行いました。桶川公民館の調理室にて、まずは腹ごしらえ。流水麺、お好みの天ぷら・温玉・薬味を乗せボトルのつゆをかける。早い・おいしい・結果簡単な「手抜きうどん」を楽しみました。

2人が新加入・初参加だったので自己紹介をはさみ、調査票の記入に取り組みました。選択肢や持ち物財の品目では「？」となることもありましたが、2時間かけて7人が全項目回答を終えました。(SU中部支部発)

<署名6万> 最賃を1500円以上に引き上げ、実働性ある中小企業支援を求める署名 6万1230筆
※先日発行の第12号ニュースに限りがありました。1万1500筆の集計は4月末段階のものです。その後、6月中旬に届いた署名について、総集すると集約までご紹介させていただきます。お呼びし、訂正いたします。

<全国労働運動大会の開催75周年、総集200筆、その他4 合計 108筆

<今週のとりくみ> 最賃署名会 6月14日(金) 午後5時30分～6時30分 場所：浦和駅東口

ました。桶川公民館の調理室で、まずは腹ごしらえ。流水麺に、お好みの天ぷら・温玉・薬味を乗せボトルのつゆをかける、早い・おいしい・始末簡単な「手抜きうどん」を楽しみました。

2人が新加入・初参加だったので自己紹介をはさみ、調査票の記入に取り組みました。選択肢や持ち物財の品目では「？」となることもありましたが、2時間かけて7人が全項目回答を終えました。(SU中部支部発)

6月現勢での増勢をめざし

蕨地区労協は春の拡大月間を通して、埼労連6月組織実態調査で組織の増勢をめざすとともに、地区労協の組織強化を図るため、加盟組合への援助を強めながら取り組みを進めています。

役員会では今年の6月現勢で22年6月現勢を突破しようと、15人の拡大目標を立て、加盟組織全体で達成できるように、組合ごとに目標を立てました。

これまで地区労協のなかで中心

的な役割を果たしてきた市教組や市職労は現在、組合員が一桁で組織の拡大・強化は大きな課題になっています。そこで5月10日には市職労の組織的な前進を図るために、自治労連県本部の担当役員にも参加してもらい、対策会議を開催、できるところからの当面の取り組みを具体化しました。「組合の見える化」を大切にするため、組合ニュースの発行と早朝宣伝を定期的に行うこととし、

合わせて会計年度任用職員や委託労働者向けアンケートの具体化、拡大対象者となる職員の紹介活動などに取り組みを確認し、まず手始めとして市立病院職員への宣伝を5月に行います。市教組・市職労以外の組合も、春の拡大月間期間の5月から6月に合わせて、訪問・懇談の場を設け、地区労協への結集と活動参加の呼びかけなど具体的な援助を進めていきます。

(蕨地区労協発)

埼玉県が「がん検診」受診を呼びかけ

埼玉県は、労働者の健康のため

「がん検診」の受診率向上を目指しています。がんは日本人の半数がかかるといわれていますが、今の医学では早期に発見できれば「治せる」病気です。

年に一度はがん検診を受信しましょう。

また、労働者の自死防止のための「ゲートキーパー」研修動画が県の公式YouTubeチャンネルで視聴できるので、職場での周

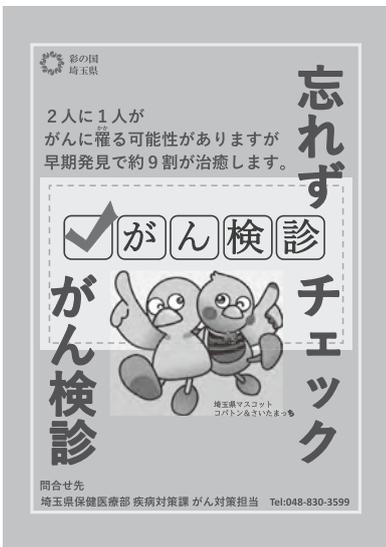
知をお願いします。

今年、「骨髄バンク」のドナー登録も呼びかけられています。

埼玉県では、ド

ナー登録者の骨髄提供時の助成制度もあります。各市町村で対象や金額が異なるのでご確認ください。

各問い合わせ先は 埼玉県保健医



忘れず
がん検診
チェク

2人に1人ががんになる可能性がありますが早期発見で約9割が治癒します。

がん検診

同合せ先
埼玉県保健医療部 疾病対策課 がん対策担当 Tel:048-830-3599

ブラック職場の改善求め 教職員たちが大宣伝

「連休中もずっと部活動で4月から一日も休んでいない」、「仕事が終わらず帰りはいつも10時すぎ」いま、学校では悲鳴ともいえる声が続々と聞かれています。

「定額働かせ放題」といわれる仕組み（「給与特別措置法」）を改めることはもとより、教職員の大幅増が求められています。「人間らしく働きたい」、「何

よりも子どもたちに向き合う時間を確保したい」そんな切実な要求に対し、文科省・中教審は5月

13日に「審議のまとめ」を発表しました。しかし内容は私たちの要求とは真逆のもので、教職調整額を4%から10%に引き上げるものの、時間外手当は支給しない、教員の抜本的増員には触れない、学校にとって最も大切な教職員間のチームワークの破壊につながる「新たな職」の設置などです。

6月1日(土)の夕方、「子どもと教育・文化を守る埼玉県会議」(埼教組・埼高教・さいたま教育文化研究所・新婦人・埼労連)は、県民に文科省のねらいを知らせ、教職員の大増員などを求める大宣伝行動を浦和駅東口で実施しました。

土曜日の夕方という時間帯でしたが、教職員を中心に50人以上が集まりました。

1時間半の宣伝でティッシュもチラシも1000組以上配布。リレートークに多くの人が足を止め、対話も弾む、楽しくて元気の出る宣伝行動となりました。

(埼高教発)



50人以上が参加

引き続き能登半島地震への支援を 現地ボランティアはじまる

今年1月1日に発生した「能登半島沖地震」は、約6カ月が経過した現在も復旧の目途はたつておらず、長期化を余儀なくされています。

埼労連では、加盟組織に支援募金の呼びかけと支援物資の呼び掛けをおこなってきました。被災地からの要望は復旧度合いによっても変わっています。5月には日用品(紙類)、パックご飯などでしたが6月に入ると水道がほぼ復旧したことで精米(1袋2キロまたは3キロがベター)の要望が高くなっている(現地は電子レンジより炊飯器の文化)ということも米の品薄、価格高騰のもと農民連の協力を得て白米を石川災対連(被災者支援共同センター)に約20

0キロ配送しました。

「能登半島地震」支援ボランティアに取り組みます。

地震発生から5か月が経ちましたが、やっと水道が復旧した地域など被災地は未だに復旧には程遠い状況にあることから、全労連「能登半島地震支援対策本部」が取り組んでいるボランティア活動への参加を募集します。

第6次

8月24日(土)～25日(日)

第7次

9月28日(土)～29日(日)

第8次

10月26日(土)～27日(日)

すでに各加盟組織に発文はしていますが、活動内容は、ゴミ出し、要望の聞き取り、支援物資の届けなど、現地の状況を踏まえて決まります。

ボランティア参加には事前の登録が必要となりますので、詳細は改めてご案内します。

なお、支援募金、支援物資への協力も引き続きおこないます。



連絡文書
2024年6月12日
埼労連議長 新島 善弘

埼労連加盟組織 御中

「能登半島地震」支援ボランティア派遣について

日頃からの活動、大変お疲れ様です。また、「能登半島地震」に対して支援物資および募金にご協力いただきありがとうございます。

さて、標記にあります、支援ボランティアについて全労連から募集の呼びかけが始まり、下記の日程まで示されており。被災地については、徐々に報道も減る中ですが、5ヶ月が過ぎて復旧・復興には程遠い状況です。仮設住宅の設置完了が8月頃の予定で、長く続く支援になること、募集の時期・締切が直近であることをふまえ、埼労連として埼玉県労働者福祉共済会(埼労共)が代表を送り出す第5次の状況を確認のち、改めて第6次から募集をかけ、複数体制で支援に行くことといたします。第6次ボランティア派遣募集の詳細につきましては、来月以降のご案内とさせていただきます。

記

- 第5次ボランティア
期間：6月28日(金)～30日(日)
内容：①被災家屋の整理、ごみ処理、②被災者への食糧支援や要望聞き取り作業など
締切：6月21日(金) 厳守
※埼労共から1～2名を代表派遣する。
- 第6次以降ボランティア
第6次ボランティア期間：8月24日(土)、25日(日) 締切：8月16日(金) 厳守
第7次ボランティア期間：9月28日(土)、29日(日) 締切：9月20日(金) 厳守
第8次ボランティア期間：10月26日(土)、27日(日) 締切：10月18日(金) 厳守
※ボランティア内容と参加の諸条件については別紙、全労連通知文をご覧ください。

上記についてご相談は個別、お問い合わせください。

埼玉県労働者福祉共済会(埼労共)
埼労連労働者福祉担当：龍尾、山崎
電話：048-838-0771 FAX048-838-0775

7月の上映案内

埼玉映文協の7月の上映は「アイ・ラヴ・ユー」です。

ろう者と聴者の夫婦が、子どもがいじめられていることを知り、子どもの悩みをやらわらげ、前向きに生きる強い子に育てようと動き出す。笑いがいっぱい、チョッピリほろりの感動作です。

ろう者が主役で聴者の役者がサポートするという話題の映画でもあります。



7月26日(金)

埼玉会館小ホール

①10時30分

②14時

③18時30分

*埼労共専用当日精算券のご利用の場合900円です。

なりました。

フードバンク

第100便

埼労連5月のフードバンク活動は、SUなどから玄米、瓶詰め、缶詰、清涼飲料水、カップ麺、乾麺などが提供され、6月6日(木)にフードバンク埼玉に18・8キログラムを届けました。

2016年から始めた埼労連のフードバンク活動のなかのフードドライブ(保存食品をフードバンク埼玉に提供する活動)は、今回の提供で第100便という節目に



フードバンク第100便